

◆特集 今こそ、脱原発・反原発運動の再強化を

被爆者の想いを未来に広げる高校生

平和ゼミナール世話人

奥住 広布

東京高校生平和ゼミナール（以下、「平ゼミ」とは、高校生が学校の枠をこえて、日本や世界の平和をめぐる現実に目を向け、核兵器も戦争もない21世紀を目指し学び交流する自主的活動です。「平ゼミ」は毎年8月に広島と長崎で交互に開かれる「全国高校生平和集会」や「原水爆禁止世界大会」に参加する学習旅行も行っています。

2021年7月に、「平ゼミ」は全国10の高校生平和ゼミナールが協力し、核兵器のない社会を実現するために日本政府に対して核兵器禁止条約に署名・批准を求める「高校生署名」を作成し、毎月1回から2回の街頭活動をおこない、昨年の末までに3000筆を突破しました。

初めて署名活動に参加した高校生は、「署名はとても勇気がいりました。多くの人は、署名には振り向いてくれません。ある時、ご高齢の婦人が署名をしてくれまし

た。その方は、被爆者だったのです。その女性は『私たちのためにあなたみたいな若い人が行動してくれてありがとう。あなた達は私たちの希望です。これからも、みんなのために頑張ってください』と言われました。私はこの言葉を聞いたとき本当に署名を集めなくてはならない、と思っただけで述べました。

平和ゼミナールのメンバーの中には、自分の学校で全校生徒の4分の1の生徒に署名を集めた高校生がいます。この高校生はなかなか署名してくれない現状に悩みながらも、「私はだんだん署名活動をやる意義を見失っていった。転機が訪れたのはロシアによるウクライナ侵攻で、核兵器が実際に脅しに使われたこと。これまで漠然としていたものが、急に現実味を帯びた。様々な兵器により人間の命が人間によって奪われる。これ以上悪化させないために私たち日本にできることは、被爆国として核廃絶、世界平和の実現に向けてリーダーシップを発



2024年9月、原宿にて署名を呼びかけ

揮することだと
思った。私たち高
校生の行動で少し
でも変えることが
できるということ
を示したい。声を
上げるのは怖い。
でもこのまま現状
が変わらない方が
もっと怖い。だか
ら声を上げる。き
つと協力してくれ
る人は出てくるか

ら」と発言しました。

学校のほとんどの生徒に核兵器廃絶の署名を集めた
生徒は「こういった活動があること初めて知った」「核
兵器の恐ろしさを政府はわかっていないの?」「自分は
こういった活動には参加できないけど、少しでも力にな
りたい!」という声が寄せられた。反対に、「核を持つ
ことはいいんじゃない?」「こんなことやっても変わら
ないじゃん!」「うちらが頑張っても、政府が変わらな
い」と意味がないんじゃないの?」という声もありました。

「私がこの活動をしてきて感じたことは、大変だとい
うことです。今まで、こういった活動をしてこなかったの
で、最初は声をかけることに緊張して行動をする事がで
きなかったけど、友達から初めて、署名を集めることが
できた」と述べています。

核兵器禁止条約の署名を集めている高校生は、やっ
ても意味があるのだろうかかと悩みながら活動をしていま
す。彼らを励ましたのは、被爆者の想いを繰り返し聞き、
二度と核兵器を落としてはいけない、と想いが強まった
からです。もう一つは、日本や世界の核兵器をなくそう
と頑張っている大人の存在と励まします。それが彼らの
活動の支えなのです。

東京高校生の平和ゼミナールはさらに署名をひろげ、
3月26日にはノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被
害者団体協議会の方と共に、外務省に提出する予定です。
翌日には核兵器廃絶の想いを多くの青年に広げるために
渋谷でのパレードを企画しております。

是非これからも、高校生の平和活動にご支援をお願
いします。

(おくずみ ひろむ)